

地域包括ケア病棟意見交換会 開催

6月7日、十全記念病院において地域包括ケア病棟意見交換会を開催、6病院(*)・行政・つむぎの21名が参加しました。

地域包括ケア病棟とは、急性期治療を終了し、直ぐに在宅や施設へ移行するには不安がある方等に、在宅復帰に向けて診療、看護、リハビリを行なうことを目的とした病床です。

入院期間は最高60日以内（レスパイトは14日以内）と決められています。

意見交換会では、在院日数が決められた入院期間以上に長くなる時の対応や、在宅復帰支援担当者やリハビリテーション職員の関わり状況、定期利用者への在院日数や通算入院期間の説明方法等について話し合いました。在宅復帰率や入院日数に考慮の必要がある病棟ならではの話題が取り上げられました。

意見交換会終了後、十全記念病院の地域包括ケア病棟を見学させていただきました。会議場所を持ち回りにすることで、病院内の見学もでき、お互いの病院を知るよい機会となりました。

※浜松市内で地域包括ケア病棟を有する6病院

十全記念病院、すずかけセントラル病院、浜松北病院、浜松赤十字病院、浜松労災病院、天竜すずかけ病院

**2学会で発表しました！
日本医療社会福祉協会全国大会学会 日本在宅医療連合学会**

6月8日、日本医療社会福祉協会全国大会学会「ともに生きる～みらいのソーシャルワークの風をつくる」において、社会福祉士の藤原が「在宅連携センターつむぎにおける地域包括ケア病棟を有効活用するための取り組み」について発表しました。

また、7月14日、日本在宅医療連合学会大会「ひとつになる～医療 福祉 介護 行政との協働 連携から統合へ まちづくりに向けて」では、保健師の水崎がポスターセッションで「相談事例から地域包括ケア病棟の意見交換会開催へ繋げた取り組み」について発表しました。

全国から多くの専門職が集まる学会では、最新情報を交換し、様々な勉強をさせていただきました。

領域の異なる多職種連携による在宅医療・介護連携推進事業について

浜松市では、医療や介護が必要となっても、住みなれた地域で最期まで自分らしい生活を送ることができるよう、領域の異なる医療・介護・福祉関係者が主体的に連携することにより、地域包括ケアシステムの構築を目指す事業を実施しています。今年度は「多職種連携で”神経難病療養者が住みやすい浜松”を創る」、「”病い”や”障がい”を抱えて地域で暮らす方々の『自分らしく生きる』を支える」、「自分らしさを支えられる私になるための『やらまいか倫理net.』活動推進、「意思決定支援に関する住民啓発活動の実践」等の事業が開始されており、つむぎも参加・協力しています。詳しくは、浜松市ホームページをご覧ください。



地域包括支援センター訪問～南区編

南区の3つの地域包括支援センター（新津・芳川・三和）を訪問しました。南区は団地の高齢化や外国籍の方が多く、文化の違いによる課題等もあり、日々対応に追われています。

南区の地域包括支援センターでは、医療・福祉に携わる方が気軽に参加できる情報交換会「みなみ区LOVE」（第3火曜13:30～14:30／南風にて）を毎月行っており、つむぎからも参加しています。

また、3つの地域包括支援センターが合同で行う「認知症対応の研修会」は、地域の方々がチームを作り、認知症役の方が模擬徘徊しているのを探し、声を掛けるという訓練です。認知症役の方が年々向上する演技力で、地域に溶け込みなかなかみつからなかったり、声掛けが適切でない場合は応じなかったり、より現実に近い訓練が行われています。認知症役を演じたり、声掛けを行う等実地の経験より、得られることも多いと聞きます。今年度も計画中だそうです。

「新津」や「三和」では、高齢者世帯への全戸訪問も実施しています。地域包括支援センターを利用していない高齢者世帯の実態を知ること、また、PRにもなると思いました。

介護医療院紹介

平成30年4月より創設された「介護医療院」は、長期的な医療と介護のニーズを併せ持つ高齢者を対象とし「日常的な医学管理」や「看取りやターミナルケア」等の医療機能と「生活施設」としての機能とを兼ね備えた施設です。高齢化が進む中、介護医療院への期待が高まっています。つむぎでも、介護医療院との連携をしていく必要性を感じています。

5月8日～8月1日の間に、西山ナーシング、有玉病院、湖東病院、和恵会医療院、さくら台病院を訪問しました。各病院ではそれぞれの特色を出しながら、医療行為の必要がある高齢者に対し、生活者としての視点で生活を楽しむことを取り入れていく工夫や努力をされていました。今後、高齢化率の上昇に伴い、増々需要が増えていくと思われます。つむぎでも引き続き情報収集に努めていきます。

Q：耳垢除去を往診で対応してくれる耳鼻科医を教えてください。（ケアマネジャー）

➔ 往診可能な耳鼻科医の情報を確認した上でお伝えした。

Q：アルコール性認知症の方への対応に困っている。（地域包括支援センター）

➔ ケース検討会議へ参加、情報を整理した上で、方向性について助言した。

Q：透析患者を受け入れてくれる特別養護老人ホームを教えてください。（地域包括支援センター）

➔ つむぎが行ったアンケートから透析患者対応可の回答がある施設へ確認し、情報を伝えた。

Q：麻薬処方をしてくれる診療所を教えてください。（急性期病院 看護師）

➔ その方の近所の診療所へ電話で確認し、情報を伝えた。

Q：パーキンソン病患者・家族会の情報を教えてください。（ケアマネジャー）

➔ 浜松市内で活動している「パーキンソン病友の会」の情報を伝えた。

つむぎの 相談事例



編集後記／つむぎ相談室には鉢植えの植物があります。昨年は小さい葉だったのに、鉢を変え、肥料・水をあげていたら、今年白い花を咲かせました。花が咲く種類とは知らなかったのでびっくり。スパティフィラムでした。お世話にこたえてくれた感じがして嬉しかったです。



よろしくお願ひします！ つむぎスタッフ

< 前列右から時計回りに >
センター長（医師）・岩瀬
保健師・水崎
事務員・高井
社会福祉士・藤原
事務員・清水

